西高農場は、地域とともに先端技術の研究･研修、憩い、自然とのふれあいの『場』として開放しています。

能代西高校生物資源系列の取り組み

水田専攻・果樹専攻

←慎重に種もみを入れていきます

能代西高では、無農薬にこだわり、安全・安心な米づくりを実践しています。４月19日には、生物資源系列３年の水田班と果樹班の生徒７人が種まき作業を行いました。

作業は育苗だしを送る係、種もみを入れる係、土を入れる係、スチーム発芽器に並べる係と分担して行い、育苗だし約700枚の種まきをしました。

発芽器に重ねられた育苗だしは、蒸気の力を利用し３日程度で芽出しとなり、その後、温室で育てられます。また、土作りにもこだわり、農業技術センターに土壌診断を依頼し、その結果を受け土壌に合った肥料を使用することで、食味値の向上を図ります。

今年は品種「あきたこまち」を2.2ha作付けし、５月下旬に田植え、９月下旬に稲刈りを予定しています。作業リーダーの能登谷翔輝さんは「種まきの作業は行ったことがあるが、みんなと協力してできて楽しかった。作るからにはおいしい米ができるよう、これから丁寧に育てていきたい。５月の田植えもがんばり、おいしい西高米を収穫したい。」と話してくれました。収穫された米はＪＡに出荷されるほか、西高祭などで一般のお客様にも販売されます。

↑土入れも手際よく行います

↑育苗だしを丁寧に重ねます

野菜専攻

↑根切り作業をする生徒

野菜専攻では、昨年度、栽培した最後のねぎの掘り取り作業を行いました。収穫されたねぎは、皮剥きや根切りがされ、学校で販売されました。また、ねぎのほかにもセロリやチンゲンサイ、枝豆など季節ごとの野菜を栽培し、農業形態に即した省力農業を実践するほか、収穫物の加工品開発・販売を通して６次産業化の可能性を広げていきます。

畜産専攻

畜産専攻では、週４回行われる実習に合わせて、牛舎の掃除を行っています。牛は、１日にふんを20～40kg、尿を６～12ℓも出し、牛たちの健康管理のために生徒たちは一生懸命作業を行います。能代西高では、繁殖牛１頭、ポニー１頭、比内地鶏を飼育しており、担当の生徒らは、飼料の改良や取捨選択、家畜の体調管理技術など実習を通して学んでいます。

↑牛舎の掃除に精を出す生徒